

# 教育研究業績書

2016年10月01日

所属：食物栄養学科

資格：准教授

氏名：鞍田 三貴

研究分野	研究内容のキーワード
臨床栄養学	N S T（栄養サポートチーム）、チーム医療
学位	最終学歴
家政学士	神戸女子大学 家政学部 管理栄養士養成課程 卒業

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
1. 文献検索の実践	2010年	教科書以外の文献を引用し熟読することで、興味を深めることが狙いである
2. 卒業論文発表予行および国家試験対策のための合宿	2009年12月から毎年	丹嶺学苑研修センターにおいて、卒業論文発表の予行を行い、本番に備える。また国家試験勉強の追い込みも同時に行う。のこり僅かとなった研究室メンバー（学部生、院生）との友好を深める。
3. 栄養サポートステーションを開設し患者の栄養支援を行う	2011年1月から現在	大学近隣の開業医および大学病院より栄養相談の必要な方を紹介いただき、研究室の院生および学生が患者支援にあたる。授業では経験できない生きた実践教育が行える
<b>2 作成した教科書、教材</b>		
1. 高齢者高血圧の治療と管理	2014年10月20日	高齢者高血圧の減塩指導におけるコツと注意点について高血圧治療ガイドラインの改正に伴うハンドブックの中の一部として掲載
2. 栄養科学イラストレイテッド 演習版 臨床栄養学ノート	2012年5月1日	テキスト基礎編・疾患別編を併用し、国家試験問題に準拠した演習問題を反復学習する。 担当箇所、チーム医療、消火器疾患
3. 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 基礎編	2012年2月15日	厚生労働省による管理栄養士国家試験出題基準をもとに臨床栄養学の内容を網羅した。基礎編では、管理栄養士の臨床現場での活動の流れに沿って項目を構成している。 担当箇所、第2章チーム医療
4. 栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	2012年2月15日	厚生労働省による、管理栄養士国家試験出題基準をもとに臨床栄養学の内容を網羅した。各疾患ごとの栄養管理に沿って構成。 担当箇所、第2章 消火器疾患。
5. 臨床栄養学概論	2011年10月20日	2, 3年制の栄養士養成施設の学生を対象とした教科書
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
1. 高槻日吉台公民館 市民講座	2016年2月19日	高齢者の栄養教育講演
2. 兵庫県理学療法士会但馬ブロック講演会	2016年1月30日	理学療法士を対象に、栄養管理の重要性について主に栄養とサルコペニアについて講演した
3. 大阪薬科大学市民講座	2015年5月30日	大阪薬科大学主催の市民公開講座において、一般の高齢者を対象に「賢い食事で健康寿命をのばそう」について講演した。今年度からの新制度「機能性表示食品」についても述べた。
4. 附属高等学校3年 科学演習Ⅲ	2015年1月26日	嚥下のメカニズムについて講義および演習を行った
5. 2014年度日本臨床栄養学会 認定臨床栄養医研修会	2014年7月27日	日本臨床栄養学会が認定する臨床栄養医師の研修会における講師 演題「診療に役立つ臨床栄養の基礎的知識」
6. 第1回阪神地区糖尿病重症化予防セミナー	2014年7月19日	武庫川女子大学栄養科学研究所栄養クリニック部門栄養サポートステーションが地域医療連携を提案し、糖尿病を地域で支援するためのセミナーを開催。栄養サポートステーションの活動を紹介した。
7. 臨床栄養 スタートアップ講座 臨床栄養のABC	2014年11月30日	平成26年度厚生労働科学研究（がん政策研究）日本対がん対策推進総合研究推進事業 日本臨床栄養学会共催若手医師、管理栄養士、薬剤師を対象に臨床栄養（チーム医療）についての基礎についての講義
8. 第8回石川県呼吸セミナー	2014年10月19日	石川県臨床工学技師会の主催により呼吸療法セミナーにおいて「呼吸療法中の栄養管理」の講師
9. 模擬授業	2013年12月16日	兵庫県立三木高等学校1年2年の女子対象に、医療における管理栄養士の役割について模擬授業をおこなった
10. 兵庫県立看護協会 栄養サポートチーム担当者研修会での講師	2013年12月12日	栄養サポートチーム専門看護師認定のためのセミナーにおける講師 栄養療法継続のための社会資源について
11. チーム医療C E研究会西日本主催第60回セミナー	2012年7月29日	呼吸療法に必要な栄養の基礎とケースステディ～人工呼吸管理の専門看護師を対象に、栄養管理の重要性とポイントを述べ演習を行った
12. 第7回地域医療連携栄養治療ネットワーク（味の素製菓）	2012年7月1日	管理栄養士養成大学が地域医療に何ができるか、武庫川栄養サポートステーションについて紹介した

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		
13. 日本臨床栄養学会認定臨床栄養医研修会 講師	2012年7月1日	日本臨床栄養学会認定の臨床栄養医単位認定の研修会において、‘透析患者の栄養状態と食事摂取状況’について講義した
14. 兵庫県看護協会NST担当者研修会	2012年12月3日	栄養サポートチーム専任の資格を得るための講習会において栄養療法についての講義
15. 第40回T A F 訪問看護リハビリテーション	2012年11月10日	訪問看護リハビリテーションで活躍する理学療法士を対象に、「コメディカルが知っておきたい栄養管理」栄養管理のポイントを述べた（神戸市立婦人会館）
16. 武庫川女子大学附属図書館教養講座	2012年10月20日	2012年度 文化祭における講演会にて「健やかな高齢期を過ごすための栄養ケア」について地域の高齢者を対象に、何をどれだけ食べればよいか、健やかな高齢期を過ごすためのポイントをわかりやすく解説した。
17. 模擬授業（大阪府立佐野高校）	2012年10月15日	食べるということはどういうことか。栄養とは何かの模擬授業
<b>4 その他</b>		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<b>1 資格、免許</b>		
1. 認定臨床栄養学術師	2004年04月	臨床栄養学会認定
2. 栄養サポートチーム(NST) 専門栄養士	2004年03月	
3. 日本サプリメントアドバイザー	2004年01月	
4. 管理栄養士	1984年7月21日～現在	
<b>2 特許等</b>		
<b>3 実務の経験を有する者についての特記事項</b>		

1. 第18回兵庫生活習慣病懇話会 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連性	2014年11月15日	初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠障害と食行動の関連について睡眠障害は食後血糖、食行動に影響していたことを報告
2. 武庫川女子大学 栄養科学研究所第1回公開シンポジウム	2013年2月9日	栄養と健康のサイエンス 研究員によるトピックス紹介～栄養サポートステーションの取り組み～
3. 第3回大阪栄養介護セミナー	2013年1月26日	大阪栄養介護セミナー 地域における栄養管理～栄養サポートステーションの紹介～
4. 宮本クリニック透析勉強会	2012年12月15日	透析患者さんの栄養管理
5. 大阪糖尿病協会顧問医師会例会	2009年09月	たかが栄養、されど栄養
6. 神戸市立西市民医療センターNSTセミナー	2008年03月	食べられない人をどうするか
7. 日本赤十字社和歌山医療センター学術講演会	2008年03月	効果的なNST活動の進め方
8. 社団法人日本看護協会神戸研修センター	2007年11月	消化器症状を持つ患者への食事の工夫
9. 第16回香川NSTメタボリッククラブ	2007年10月	NSTロールプレイング チーム医療
10. HIV感染症医師実地研修（1ヵ月コース）	2007年10月	臨床栄養学
11. 第7回褥瘡研修会	2007年02月	褥瘡と栄養・栄養管理は意味があるのか
12. 大阪府茨木保健所管内 集団給食研究会	2007年02月	NSTについて
13. 舞鶴共済病院 記念講演	2006年11月	栄養療法およびNSTの重要性・意義・効果などについて
14. 国立京都医療センター定期公演会	2006年07月	NSTが必要となった理由
15. 第1回栄養治療を考える会	2006年06月	コメディカルが作った栄養管理システム
16. 平成17年度 新介護予防セミナー 全国老人福祉協議会	2006年02月	ワークショップ 介護予防の栄養改善～具体的な進め方～
17. 肝疾患患者指導研究会	2005年11月	パネルディスカッション 「NST活動における肝臓病教室の現状と成果」
<b>4 その他</b>		
1. 日本静脈経腸栄養学会 評議員	2011年	
2. 日本静脈経腸栄養学会 編集委員	2005年	
3. 日本病態栄養学会 評議員	2003年4月	
4. 日本臨床栄養協会 学術委員 評議員	2000年4月	
5. 日本臨床栄養学会 評議員	1999年4月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
1. 高齢高血圧の治療と管理	共	2014年10月2	先端医学社	日本高血圧学会の治療ガイドライン2014年改定にあ

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>1 著書</b>				
		0日		たり作成された。高齢高血圧の減塩指導の要点について記した。
2. ヘルスケア・レストラン 患者とともに歩む栄養指導 最終回	単	2012年1月	日本医療企画	人の健康と幸福に寄与する専門職をめざそう
3. 臨床栄養学 疾患別編	共	2012年02月	羊土社	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁 編
4. 臨床栄養学 基礎編	共	2012年02月	羊土社	本田佳子, 土江節子, 曾根博仁 編
<b>2 学位論文</b>				
<b>3 学術論文</b>				
1. Association of Metabolic Syndrome with Serum Adipokines in Community-Living Elderly Japanese Women Independent Association with Plasminogen Activator-Inhibitor-1(査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 13, Number 9, 2015 415-421	Mika Takeuchi, Ayaka Tsuboi, Miki Kurata, Keisuke Fukuo, Tsutomu Kazumi Associations between metabolic syndrome (MetS) with serum adipokines and basal lipoprotein lipase mass (serum LPL) have not been extensively studied in elderly Asians, who in general have lower body mass index than European populations. Although proinflammatory, prothrombotic, and anti-inflammatory states were associated with MetS, higher PAI-1 was associated with MetS independent of fat mass index and insulin resistance in elderly Japanese women, in whom obesity is rare.
2. Association of Metabolic Syndrome with Chronic Kidney Disease in Elderly Japanese Women: Comparison by Estimation of Glomerular Filtration Rate from Creatinine, Cystatin C, and Both(査読付)	共	2015年11月	METABOLIC SYNDROME AND RELATED DISORDERS Volume 14, Number 1, 2015 40-45	Miki Kurata, Ayaka Tsuboi, Mika Takeuchi, Keisuke Fukuo, and Tsutomu Kazumi, Associations between metabolic syndrome (MS) and chronic kidney disease (CKD) has not been extensively studied in elderly Asians, who in general have lower body mass index (BMI) than European populations. Prevalence of CKD varied substantially depending on the used equation. In nonobese, elderly Japanese women, both the presence of MS and the number of MS components were associated with higher prevalence of CKD and elevated blood pressure may play an important role in these associations. These findings should be confirmed in studies employing more participants with MS diagnosed using standard criteria (waist circumference instead of BMI).
3. The impact of nutritional state on the duration of sputum positivity of Mycobacterium tuberculosis (査読付)	共	2015年11月	INT J TUBERC LUNG DIS 2015 Volume 19 Number 11, 1369-1375 (7)	Hatsuda Kazuyoshi, Takeuchi Mika, Ogata Kanako, Sasaki Yumiko, Kagawa Tomoko, Nakatsuji Haruka, Ibaraki Madoka, Sakaguchi Mitsuhiro, Kurata Miki, Hayashi Seiji  The outcome of anti-tuberculosis treatment varies according to patient factors. To retrospectively identify risks related to the extension of time to negative sputum culture (Tn) and to determine their clinical significance. The nutritional state of a TB patient can be used to predict Tn.
4. Direct association of visit-to-visit HbA1c variation with annual decline in estimated glomerular filtration rate in patients with type 2 diabetes(査読付)	共	2015年10月	Disorders (2015) 14:69 DOI 10.1186/s40200-015-0201-y	Akiko Takenouchi, Ayaka Tsuboi, Mayu Terazawa-Watanabe, Miki Kurata, Keisuke Fukuo and Tsutomu Kazumi  This study examined associations of visit-to-visit variability of glycemic control with annual decline in estimated glomerular filtration rate (eGFR) in patients with type 2 diabetes attending an outpatient clinic. Intraperitoneal mean and coefficient of variation (CV) of 8-12 measurements of HbA1c and those of 4-6 measurements of fasting and post-breakfast plasma glucose (FPG and PPG, respectively) during the first 12 months after enrollment were calculated in a cohort of 168 patients with type 2 diabetes. Annual changes in eGFR were computed using 52 (median) creatinine measurements obtained over a median follow-up of 6.0 years. Multivariate linear regressions assessed the independent correlates of changes in eGFR. Conclusions: Consistency of glycemic control is important to preserve kidney function in type 2 diabetic patients, in particular, in those with nephropathy.
5. Low hemoglobin levels contribute to	共	2015年03月	Asia Pac J Clin Nutr	Eriko Yamada, Mika Takeuchi, Miki Kurata, Aya

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
te to low grip strength independent of low-grade inflammation in Japanese elderly women (査読付)			2015:24(3):444-451	ka Tsuboi, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo Muscle strength declines with age. However, factors that contribute to such declines are not well documented and have not been extensively studied in elderly populations of Asian origin. Correlations of grip strength with a broad range of factors associated with declines in muscle strength were examined in 202 community-living elderly Japanese women.
6. 急性期脳血管疾患患者の嚥下機能改善に影響を及ぼす因子の検討(査読付)	共	2014年9月	日摂食嚥下リハ会誌18(2):141-149(2014)	山田恵理子 西村智子 山中英治 鞍田三貴 患者の意欲が嚥下機能改善に関係するかを検討した。脳血管疾患39例の嚥下機能改善群・不変低下群に分類した。意欲評価は、アパシースケールを用いた。2群間の入院時の年齢、主疾患、脳卒中既往の有無、ADL、四肢麻痺の有無、JCS、血液検査値に差はなく、消化管使用までの日数、ST介入までの日数、誤嚥性肺炎の有無、うつスコアにも差は見られなかった。ロジスティック回帰分析による嚥下機能改善に関する因子は、入院時BMIとST介入時の意欲であった。
7. 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の予後予測栄養因子の検討	共	2014年3月31日	武庫川女子大紀要(自然科学)第61巻21-26(2013)	鞍田三貴、西真理絵、藤村真理子、里中和廣 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の生存に影響する術前背景および臨床指標を見出し、予後予測術前栄養因子を抽出した。5年間のPEG施行患者で生存調査が可能であった74症例を対象とした。Alb3.5以上、Hgb12以上、消化管栄養の患者が1年時点の生存期間が長期であった。1年生存に最も影響を与える因子は、気切切開の有無(ハザード比0.24、95%信頼区間0.07~0.78)とアルブミン(HR0.25、95%CI0.11~0.57)であった。
8. The impact of nutrition and glucose intolerance on tuberculosis development in Japan (査読付)	共	2014年1月	INT J TUBERC LUNG DIS 18(1):84-88, 2014	Seiji Hayashi, Mika Takeuchi, Kazuyoshi Hatsuda, Kanako Ogata, Miki Kurata, Tamaki Nakayama, Yukio Ohishi, and Hideji Nakamura TB is decreasing favorably; however, Japan is still categorized as an intermediate-burden country. In this regard, we aimed to identify the metabolic and nutritional state risk factors for the development of TB. In Japan, the development of TB is still associated with iGT and malnutrition.
9. Association of Pulse Pressure with Serum TNF- $\alpha$ and Neutrophil Count in the Elderly (査読付)	共	2014年	Journal of Diabetes Research Vol.2014, Article ID 972431, 7pages	Eriko Yamada, Mika Takeuchi, Miki Kurata, Tsutomu Kazumi, Keisuke Fukuo 2型糖尿病と炎症マーカーの危険因子として知られる脈拍の断面関係を150人の地域在住高齢女性のうち高血圧を有する人79人(52.7%)で調査した。地域在住高齢女性の好中球、インスリン抵抗性、高値TNF- $\alpha$ と高い脈拍は独立した関係であることが実証され、インスリン抵抗性と慢性的軽度炎症は、高血圧を有する高齢女性の2型糖尿病と高い脈拍を部分的に関連づけていると示唆される。
10. 肺結核患者の入院時栄養評価~第1報~(査読付)	共	2013年5月	静脈経腸栄養学会誌Vol.28 No3:131-136	武内海歌 鞍田三貴 福尾恵介 中山環 大石幸男 初田和由 林清二 結核患者の栄養状態を評価した。結核菌検査を施行した382名(男268名、女性114名、平均年齢59.6 $\pm$ 19.5歳)を対象とし、入院時BMI、血清アルブミン(Alb)、CRP、空腹時血糖(FBS)、TL C、PNIをretrospectiveに検討した。結核菌陰転化入院時PNI、CRP、GLUが影響していた。血清Alb値は50歳未満の結核患者において陰転化を規定する因子として重要なマーカーであることが明らかとなった。
11. 開業医との連携と継続した栄養指導	単	2013年2月	Nutrition Care No1.6. No2:p16-22	栄養科学館栄養科学研究所で活動を開始した栄養サポートステーションの1年間の結果の考察
12. 初回治療肺結核患者の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子の検討(査読付)	共	2013年10月	日本結核病学会誌Vol.8 No10:697-702	武内海歌 鞍田三貴 林清二 肺結核(TB)の排菌陰性化遅延を予測する入院時栄養因子を検討した。単変量解析では、男性、入院時BMI18.5kg/m <sup>2</sup> 未満、Alb3.0g/dL以下、CRP0.3mg/dL以上、HbA1c(NGSP)6.5%以上、RDA%エネルギー87%未満、喀痰塗抹検査が陰性化遅延因子として抽出された。重回帰分析では入院時HbA1c(NGSP)、CRP、BMIが抽出された。
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
1. 高齢者の栄養ケア 今そこにある危機にチーム医療で立ち向かう 管理栄養士の立場から	単	2013年11月3日	第55回日本病院学会	超高齢化社会を迎えて、健康寿命を伸ばすための食事についての講演

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
2. ワークショップ アウトカム予測因子としての栄養アセスメント 初回治療結核患者の排菌陰転化遅延に關与する入院時栄養因子		2012年02月	第27回日本静脈経腸栄養学会	
3. 肝臓治療における栄養治療 現場からの熱いメッセージを込めて		2011年01月	日本病態栄養学会	
<b>2. 学会発表</b>				
1. 在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢患者 1 症例～開業医と大学の連携～	共	2016年06月26日	第4回日本在宅栄養管理学会	鞍田三貴 武内海歌 倭英司 鹿住敏 2011年より栄養サポートステーション (NSS) を開設し栄養支援を開始した。在宅訪問により糖尿病と認知症進行予防が可能であった独居高齢患者 1 症を提示し例主治医とNSSの連携による栄養支援は、長期的血糖コントロールと認知症進行予防が可能である
2. 若い女性の約半数で朝食後に無自覚低血糖 (70mg/dl以下)	共	2016年05月14日	第21回兵庫生活習慣病懇話会	坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏
3. 栄養量および食形態低下患者への早期栄養介入効果	共	2016年02月26日	第31回日本静脈経腸栄養学会	加地真梨、山本亜衣子、南有紀子、小野正代、尾上明徳、武内海歌、鞍田三貴 入院中の食事に対して必要量を満たせない食事箋が出された時点で管理栄養士が介入した場合の効果について検討した。負の食事箋を発行された時点で管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより、在院日数及び転帰に影響を及ぼす可能性が示唆された。
4. アバンドTM投与により褥瘡改善を認めた広範難治高齢褥瘡患者一症例報告	共	2016年02月26日	第31回日本静脈経腸栄養学会	山本亜衣子、加地真梨、精松千尋、南有紀子、鞍田三貴 広範な難治高齢褥瘡患者に対し、入院時より同カロリー投与下において、アバンドTMを1か月投与したが、Cr、BUNは低下し褥瘡の改善を認めた。高齢難治褥瘡患者に対してアバンドTMの投与は有効である。
5. オリジナル栄養摂取量調査法 (QC/NQ) の妥当性の検討 24時間蓄尿とFFQとの比較	共	2016年02月25日	第31回日本静脈経腸栄養学会	武内海歌、木戸里佳、鞍田三貴 限られた栄養指導中に食事摂取量を瞬時に把握できるオリジナル栄養摂取量評価表 (QC/NQ) を開発、その妥当性を検討した。QC/NQによるたんぱく質と食塩摂取量の評価は、24時間蓄尿から求めた客観的数値に近似値であり予測精度も高かった。栄養指導中に摂取量を評価するツールとして活用できる可能性が示唆された。
6. 若年女性において食後TG代謝動態は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2016年01月10日	第19回日本病態栄養学会	武内海歌、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 平均年齢22歳の女子大学生35名を対象に、テストミールA摂取後の食後TG代謝動態 (TG-AUC) が体脂肪量、血清アディポカインに關連するかを検討した。腹部肥満の指標である体幹下肢脂肪比がTG-AUCと強く相関した。経年による腹囲増加は最小限に努める必要がある。
7. 若年女性において食後TG代謝動態は腹部脂肪蓄積と相関する	共	2015年10月31日	第20回兵庫生活習慣病懇話会	武内海歌、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 体脂肪量と血清アディポカインが食後TG代謝動態に關連するかを検討した。女子大学生35名にテストミールAを15分以内に摂取し食前、食後30、60、120分後にTGを測定し、その曲線下面積 (AUC) を食後TG代謝動態の指標とした。TGは食前55から79 mg/dlと漸増した。TG-AUCは体脂肪量等とは相関しなかったが体幹/下肢脂肪比 (r=0.54, p<0.001)、アポB (r=0.65, p<0.001) 等と相関した。重回帰分析では体幹/下肢脂肪比、アポBがTG-AUCの予知因子であった (R2=0.73)。腹囲が74cmの若年女性においても、腹部肥満の指標である体幹/下肢脂肪比が食後TG代謝動態と強く相関した。経年による腹囲の増加は最小限に止める努力が必要である。
8. オリジナル栄養摂取量調査法 (QC/NQ) の妥当性の検討	共	2015年10月3日	第37回日本臨床栄養学会/第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	木戸里佳 武内海歌 鞍田三貴 オリジナル栄養摂取量調査法 (Questionnaire Calculating Nutrition Intake Quickly:QC/NQ) を開発とその妥当性を検討。24時間蓄尿を確実に実施できた13名、28歳 (21-68歳) である。管理栄養士の問診によるQC/NQとFFQを用いた栄養摂取量評価を行った。蓄尿より推定たんぱく質摂取量、推定食塩摂取量を算出し、QC/NQとFFQから算出したたんぱく質、食塩量と比較。 QC/NQと24時間蓄尿との相関係数はたんぱく質量r=0.61 (p<0.05)、食塩量r=0.70 (p<0.01)、ともに有意な正相関を認めた。FFQとの相関は示されなかった。QC/NQでのたんぱく質、食塩摂取量は蓄尿より求めた客観的数値に近く、栄養指導中に摂取量を評価するツールとして活用できる可能性が示唆された。
9. 栄養量および食形態低下の食事指示を受けた患者への管理栄養士介入効果の検討	共	2015年10月3日	第37回日本臨床栄養学会/第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	加地真梨 山本亜衣子 南有紀子 武内海歌 鞍田三貴 入院中に栄養量が明らかに減少する食事箋が出され

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
10. 若年女性の食後代謝動態に対する運動の影響：テストミールAによる食事負荷試験を用いて	共	2015年10月04日	第37回日本臨床栄養学会/第36回日本臨床栄養協会 第13回連合大会	<p>た時点で管理栄養士が介入した場合の効果を検討。介入群、従来群はランダム割り付け群分けした。負の食事箋発行患者の約半数は入院時診療計画で栄養管理は不要と判断されており、負の食事箋発行時点で、管理栄養士が適切な栄養管理を行うことにより栄養改善に寄与する可能性が考えられた。</p> <p>武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 食後代謝動態に対する運動の影響を若年女性において検討した。女子大生35名（運動群17名と非運動群18名）が12時間絶食後に、朝食としてテストミールA「糖質58g、脂質17g（エネルギー比33%）、蛋白質17g、450kcal」を15分以内に摂取した。運動選手のインスリン感受性は非常に良好であったが、テストミールAに対する血糖とTGの反応は健康な若年女性では比較的小さく、日ごろの激しい運動の影響も限局的であった。</p>
11. 2型糖尿病では空腹時血糖（FPG）の変動と食後TG（PTG）が腎症悪化の予知因子である	共	2015年05月22日	第58回日本糖尿病学会 年次学術集会	<p>北岡かおり、竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者161名で、6.3年間（中央値）における腎症悪化（腎症病期の進展あるいは尿アルブミン/クレアチニン比（ACR）の倍増以上、20名）の予知因子を多重ロジスティック回帰分析で検討した。年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、収縮期血圧、HbA1c、食後血糖、空腹時TGの平均と標準偏差（SD）、FPG、LDLとHDLコレステロール、SD-PTG、log ACRとは独立して、PTG値（オッズ比：1.013, p=0.001）とSD-FPG（オッズ比：1.036, p=0.04）が腎症悪化の予知因子であった。PTGの低下とFPGの変動の抑制が腎症悪化防止に有用である可能性が示された。</p>
12. 2型糖尿病におけるアテローム硬化、濾過機能低下とアルブミン尿の関連	共	2015年05月22日	第58回日本糖尿病学会 年次学術集会	<p>武内海歌、竹之内明子、坪井彩加、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者168名で、頸動脈IMTと6.3年間（中央値）のeGFRの変化をACR値別に検討した。eGFRの変化は線回帰分析で算出した。ACR<math>\geq</math>30 mg/gと比較して10 mg/g未満の最大IMTは小さく（0.98 vs. 1.13 mm）、年次eGFR変化（0.08 vs. -1.72 ml/min/1.73m<sup>2</sup>）は高かった。さらに、5mg/g未満の最大IMTも小さく（0.95 mm）、年次eGFR変化（-0.03 ml/min/1.73m<sup>2</sup>）も高かった（すべてp&lt;0.05）。できる限り低いACRの達成が濾過機能低下とアテローム硬化の進展予防に有用である可能性が示唆された。</p>
13. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数（CV）は推算糸球体濾過量（eGFR）の推移と関連した	共	2015年05月21日	第58回日本糖尿病学会 年次学術集会	<p>竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 2型糖尿病患者168名の12か月間のHbA1cの平均値、CVと6.3年間（中央値）のeGFRの推移を重回帰分析で検討した。登録時のeGFR、年齢、性、BMI、腹囲、喫煙、糖尿病罹病期間、糖尿病治療、降圧薬服用、脂質異常症薬服用、12か月間の収縮期血圧、空腹時と食後の血糖とTG、LDL-C、HDL-Cの平均値とそのCV、12か月間の平均のHbA1cとは独立して、log（尿アルブミン/クレアチニン比）（標準化<math>\beta</math>、-0.193）とCV HbA1c（標準化<math>\beta</math>、-0.186）がeGFRの低下と相関した。アルブミン尿の改善とHbA1cの変動の抑制が濾過機能低下の防止に有用である可能性が示唆された。</p>
14. 2型糖尿病において12か月のHbA1cの変動係数（CV）は推算糸球体濾過量（eGFR）の低下と直接相関した	共	2015年04月18日	第19回兵庫生活習慣病懇話会	<p>竹之内明子、坪井彩加、武内海歌、鞍田三貴、福尾恵介、鹿住敏 外来2型糖尿病患者168名のHbA1cのCV（年間変動）とACR（Alb/Cre比）がeGFRの低下に相関した。</p>
15. 高齢透析患者の栄養状態	共	2015年02月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会	<p>織原菜祐花 武内海歌 宮本孝* 鞍田三貴 高齢透析患者の栄養状態および身体計測を行い、問題点を明らかにする。栄養指導依頼患者の50%が70歳以上であった。摂取量不足群は年齢に関わらず低栄養であった。食事を意識的に制限している症例が高頻度であった。</p>
16. 結核排菌遅延に関与する栄養学的危険因子の抽出とその有用性の検討	共	2015年02月12日	第30回日本静脈経腸栄養学会	<p>中辻晴香、初田和由、武内海歌、茨木まどか、佐々木由美子、香川智子、坂口充弘、鞍田三貴、林清二 入院時検査値から排菌遅延因子に関わる危険因子を抽出し、その有用性を検証する。男性は女性より有意に排菌が遅延した。栄養状態と排菌遅延の関連が示唆され、男性では低BMI、GIが、女性では低BMI、WBC増多が排菌遅延を予測できる危険因子であることが判明した。</p>
17. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連性	共	2014年11月15日	第18回兵庫生活習慣病懇話会	<p>亀井こずえ、前山遥、笹野馨代、田中明紀子、川村雅夫、古川安志、古田浩人、赤水尚史、西理宏 鞍田三貴 2型糖尿病初回教育入院患者を対象に睡眠障害と食行動の関連について検討した。睡眠障害は53%にみ</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
18. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食生活および栄養摂取量の関連	共	2014年10月5日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	られ睡眠障害有群は夕食後血糖が高値であった。睡眠障害は食行動の「満腹感覚」と関連性を認めた。 亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 西理宏 鞍田三貴 2型糖尿病患者を睡眠障害の有無により2群に分け、入院時栄養指標、Inbody720測定による体組成、食事摂取量、食行動を比較した。睡眠障害有群は無群に比べ、糖尿病罹患歴が有意に長く、食行動調査では、満腹感覚、食べ方、食事内容に差が見られた。
19. 精神科救急入院科病棟の入院時栄養状態の特徴	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	木戸里佳 長尾浩史 宇野久一 鞍田三貴 精神科救急入院科病棟の入院時栄養状態を、BMI18.5未満を低体重群、18.5~25未満を正常群、25以上を肥満群の3群に分類し調査した。低体重群32%、正常群68%、肥満群31%でありAlb値は3群に差はなかった。低体重群(32%)と肥満群(31%)が二極化して存在しており、低体重群は、マラスム型栄養状態あることが判明した。
20. 高齢透析患者の栄養状態と問題点	共	2014年10月4日	第36回日本臨床栄養学会 第35回日本臨床栄養協会 第12回連合大会	武内海歌 亀井こずえ 織原茉佑花 本荘裕美 松本みゆき 岩崎亮子 西庵良彦 宮本孝 鞍田三貴 透析専門クリニックの栄養指導依頼患者87例を対象に年齢の中央値(70歳)で2群に分類し高齢透析患者の栄養状態および問題点を明らかにした。50%が70歳以上であった。0歳以上で意識的食事を制限している症例は85%に見られた。
21. 若年成人女性における食生活パターンと体脂肪の関係	共	2014年10月25日	第35回日本肥満学会	鞍田三貴 谷川千尋 谷崎典子 武内海歌 福尾恵介 高田健治 若年成人女性の食生活パターンを客観的に分類し、各パターンに対応する個体群の体脂肪を明らかにした。 若年成人女性90名の体脂肪を測定し、食事調査と食行動質問票調査59変数について主成分分析、得点を特徴変量とするベクトルを各個体から抽出した。特徴変量として9主成分が抽出された。食生活の内容が体脂肪率に影響を及ぼすことが明らかとなった。
22. 2型糖尿病患者における睡眠障害と食行動の関連		2014年10月25日	第51回日本糖尿病学会 近畿地方会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 古田浩人 赤水尚史 西理宏 鞍田三貴 初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠障害と食行動の関連について検討した。睡眠障害有群は50%であり、睡眠障害無群と比較し、食後血糖は高値の傾向があり、夕食後血糖は有意に高値であった。睡眠障害有群は、「空腹感・食動機」、「満腹感覚」、「食べ方」、「食事内容」、「リズム異常」に有意差を認めた。睡眠障害は食後血糖、食行動に影響していた。
23. 大学における地域栄養サポートステーション(NSS)の糖尿病栄養食事指導効果	共	2014年10月25日	第51回日本糖尿病学会 近畿地方会	織原茉佑花 亀井こずえ 鞍田三貴 倭英司 鹿住敏 福尾恵介 難波光義 011年より栄養サポートステーション(NSS)を開設し栄養支援を開始している。全対象の1年3ヶ月HbA1c値は7.8±1.1%と減少した。主治医と大学栄養サポートステーションの連携による栄養支援は、継続指導による長期的血糖コントロールが可能である
24. 2型糖尿病患者における睡眠リズムと食生活および栄養摂取量との関連	共	2014年09月4日	第71回和歌山内分泌代謝研究会	亀井こずえ 前山遥 笹野馨代 田中明紀子 川村雅夫 古川安志 西理宏 鞍田三貴 睡眠障害と食行動の関連について初回糖尿病教育入院患者26症例を対象に睡眠調査は、Pittsburgh睡眠質問票(PSQI)、活動調査は、日本語版朝型-夜型質問紙(MEQ)を用いPSQIスコア5.5をカットオフに睡眠障害有無の2群に分け、体組成、食行動を比較した。 睡眠障害有群は50%であり、食後血糖は高値の傾向があり、夕食後血糖は有意に高値であった。睡眠障害有群は、食動機、「満腹感覚」、「食べ方」、「食事内容」、「リズム異常」に有意差を認めた。
25. 上腕脈圧は若年と中年ではインスリン抵抗性と、高齢ではlow-grade inflammationと相関する	共	2013年5月16日	第56回日本糖尿病学会	山田恵理子、坪井 彩加、鞍田三貴、鹿住 敏、福尾恵介 上腕脈圧と2型糖尿病の危険因子との関連を女性で検討した。女性611名で、BMI、腹囲、体組成、血糖、インスリン、脂質、炎症指標、アディポカインを測定し、一部ではOGTTも施行した。脈重回帰分析では脈圧の独立した規定因子は若年ではHOMA-IRとアディポネクチン、中年ではHOMA-IR、高齢ではhsCRPとTNF-αであった。【結論】上腕脈圧は若年と中年ではインスリン抵抗性、高齢ではlow-grade inflammationと相関した。
26. 結核発病、治療反応性と耐糖能異常、栄養の関連性の検討		2013年3月28日	第88回日本結核病学会	林 清二 武内海歌 佐々木由美子 香川智子 鞍田三貴 効果的な栄養介入のために、結核発病、排菌陰転化

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
27. 肺結核発症と排菌陰転遅延に関連する栄養指標の抽出	共	2013年2月21日	第28回日本静脈経腸栄養学会	遅延に関連する危険因子を抽出した。結核患者522名と同期間のドック受診者から年齢をマッチさせた対象を1:1で抽出し臨床指標を比較した。男性はIGT、低栄養と結核発症と排菌遅延の間に関連を認めた。 初田和由 武内海歌 茨城まどか 大石幸男 金田和奈 濱出清美 宮崎美佳 佐々木由美子 香川智子 川口知哉 中山環 鞍田三貴 林 清二
28. 消化器癌患者における術前サルコペニア有病率と術前食事摂取状況の検討		2013年10月6日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	内田絢子、鞍田三貴、鳥山明子、中山環、風間敬一、山本和義、辻仲利政 消化器癌患者における術前のサルコペニア有病率を明らかにし、栄養状態や術前食事摂取状況との関係を検討。消化器癌患者のサルコペニア発生率は24.5% (26/116例)であった。体重1kg当たりのたんぱく質摂取量はサルコペニア群で低い傾向が見られ術前からのたんぱく質摂取量の確保は、サルコペニアの予防に効果的である可能性が示唆された。
29. 地域医療栄養治療システム栄養サポートステーション (NSS) における糖尿病栄養食事	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	鞍田三貴 織原菜祐花 亀井こずえ 内田絢子 山田恵理子 鹿住敏 福尾恵介 難波光義 2011年より栄養サポートステーション (NSS) を開設し栄養支援を開始している。全対象の1年3ヶ月HbA1c値は7.8±1.1%と減少した。主治医と大学栄養サポートステーションの連携による栄養支援は、継続指導による長期的血糖コントロールが可能である
30. 高齢女性において糸球体濾過量、血清鉄、血清アルブミンが握力の独立した規定因子である	共	2013年10月5日	第35回日本臨床栄養学会 第34回日本臨床栄養協会 第11回連合大会	山田恵理子、坪井 彩加、鞍田三貴、谷野永和、鹿住敏、福尾恵介 高齢者において握力の低下は身体機能の低下や寝たきりのみならず認知能力の低下とも相関する。今回高齢女性 (n=202、年齢76歳) において、心血管疾患のリスクと握力との関連を調査した。年齢とは独立して、アルブミン、鉄とeGFRが握力の規定因子であった (累積R <sup>2</sup> =0.355)。この関係は年齢、炎症や貧血とは独立して見られた。
31. 経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) 施行患者の1年生存に関する術前栄養因子		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	鞍田三貴 西真理絵、武内海歌 藤村真理子 和田哲成 里中和廣 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の1年生存に影響する因子を抽出する。 経皮内視鏡胃瘻造設術 (PEG) を施行し、予後調査74例の性別、術前気切の有無、術前栄養補給法を2群分類、年齢、PEG施行前の臨床諸指標は中央値で2群分類し、Kaplan-Meier法で生存解析を行い、logrank-testを使用した。予後予測因子の抽出として、COX比例ハザードモデルを使用した。 術前Alb値、気切の有無が予測因子として有意に関わっていた。
32. 血液透析導入1年未満の透析患者における食事制限意識と栄養指標の関係		2013年1月12日	第16回日本病態栄養学会	鞍田三貴 内田絢子 山田恵理子 福尾恵介 松本みゆき 本荘裕美 北風美保子 久保賀子 宮本孝 透析患者の食事に対する意識と栄養指標との関係を検討する。 透析導入1年未満の患者27名 (男18/女9、年齢中央値69才) を対象とし食事制限群、非制限群の透析前の栄養指標、透析前後の体重増加率、食事摂取状況と比較した。 制限群の食事摂取量は目標値より不足しており、GNRIやDW/標準体重は低値を示した。また透析間体重増加率も制限群は高値であった。以上より、意識的食事制限は低栄養のリスクと考えられる
33. 神経筋疾患専門病院における経皮内視鏡的胃瘻造設術 (PEG) 施行患者の生存に関する術前栄養因子		2013年01月12日	第16回日本病態栄養学会	西真理絵、武内海歌 鞍田三貴 藤村真理子 和田哲成 里中和廣 1年生存群、死亡群におけるPEG施行前の栄養指標を比較し、3カ月、6カ月、1年の生存率を検討する。 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行患者の1年予後に関連している術前因子は、血清Alb値、Hb、栄養補給法、気切の有無であった。
34. 胃癌術後患者における化学療法継続に影響を及ぼす栄養因子の検討		2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部総会	長島有花、大池教子、鳥山明子、風間敬一、辻仲利政、鞍田三貴、福尾恵介 胃癌術後の化学療法継続に影響を及ぼす因子の検討を行った。 TS-1完遂率は、77.5% (31例) であった。化学療法開始時及び開始後1ヶ月の体重減少率は、完遂群-7.8%、-8.0%に比べ、中止群は-11.3%、-11.8%と有意に高値を示した。 化学療法開始後1ヶ月の食事マイナス因子を訴える患者は、完遂群19%に比べ、中止群67%であり、有意に高値を示した。 胃癌術後化学療法の中止には、開始後1ヶ月の体重



研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
35. 疾患別に見た経皮内視鏡的胃瘻造設術(PEG)施行患者の生存に関する術前栄養因子	共	2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会	減少が関係しており、同時期に食欲低下を示す症例が多かったことから、化学療法早期の食物摂取による体重維持が栄養管理上必要であることが示唆された。 西真理絵 武内海歌 鞍田三貴 福尾恵介 藤村真理子 廿日岩美宏 和田哲成 里中和廣 神経筋疾患におけるPEG施行患者の生存に影響する術前栄養因子を抽出する。 予後調査(転院先に調査票を郵送)で生存日数の確認が可能であった神経筋疾患群37例では、76歳未満(p=0.02)、気管切開有(p=0.03)、食道裂孔ヘルニア無(p<0.01)、術前栄養補給法が消化管使用群(p=0.05)で1年生存率が高いことが示された。 多変量解析による生存分析では、神経筋疾患群で気管切開の有無が予測因子として有意に関連していた。
36. 血液透析患者における食事制限意識と栄養指標の関係		2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部学術総会	山田恵理子 内田絢子 鞍田三貴 松本みゆき 本庄裕美 北風美保子 久保賀子 宮本孝 透析患者の食事に対する意識と栄養指標との関係を検討する。 透析導入1年未満の患者27名(男18/女9、年齢中央値69才)を対象食事制限群、非制限群の栄養指標、透析前後の体重増加率、食事摂取状況を比較した。 透析前後(中2日)の体重増加率(中央値)は、制限群5.1%、非制限群2.4%と制限群が有意に高値を示した。GNRIは制限群90.9±9.3、非制限群96.8±7と制限群は有意に低値を示した。意識的食事制限は低栄養のリスクと考えられた。
37. 認知症を有する高齢者の必要エネルギーの決定法		2012年12月2日	第11回日本栄養改善学会近畿支部総会	内田絢子 今井聡子 竹田愛美 森垣知美 鞍田三貴 藤井芳夫 高齢者の1日の活動量を測定し、最も適切なTEE(Total energy expenditure)算定法について模索した。 方法 食事摂取が良好の認知症高齢者16例を対象とした。3軸センサー活動量計(スズケン)を用いて測定した1日の運動量、微小運動量、特異的動作量に基礎代謝量を合計した値を計測TEEとした。計測TEEと実際の摂取エネルギーは計測TEEを大幅に上回り、体重も増加していた。計測TEEは実測体重×25kcalと強い相関を示し高齢者のTEE算定に利用できる可能性が示された。
38. 血液透析間の体重増加率と栄養指標および食事摂取状況		2012年10月7日	第34回日本臨床栄養学会・第33回日本臨床栄養協会 第10回大連合大会	鞍田三貴 内田絢子 山田絵里子 武内海歌 福尾恵介 水原陽子 本庄裕美 北風美保子 宮本孝 透析導入後初回栄養指導患者30名を対象に、中1日の体重増加率3%以上群と3%未満群に分類し、栄養アセスメントおよび患者の食事状況を評価した。 透析間体重増加症例の食事摂取量は過少申告であった。透析導入に至るまでの栄養指導経験症例が多いことから、制限の意識から離脱できず不適切な食事内容を助長させている可能性が示唆される。
39. 認知症有無別にみたPEG施行前後の栄養状態と術後トラブルについて	共	2012年02月24日	第27回 日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴、森垣知美、武内海歌、福尾恵介、藤村真理子、内海繁敏、和田哲成、里中和廣 認知症の有無別にPEG後のトラブル発生、短期予後について検討した。 認知症群45例(83.3±8.2歳)と非認知症群30例(脳血管障害、肺疾患81.1歳±8歳)を対象に栄養状態、術後トラブル、短期予後を後ろ向きに調査した。 術後トラブル発生、発熱発生頻度は認知症PEG症例が多い傾向にあった。しかし、術後早期死亡率に差は認めなかった。
40. 地域連携・栄養治療システムの開発~武庫川栄養サポートステーション(NSS)の設立~	共	2012年02月24日	第27回日本静脈経腸栄養学会	鞍田三貴、西真理恵、武内海歌、長嶋有花、正木志歩、谷崎典子、鈴木一永、鹿住敏、福尾恵介、難波光義 武庫川女子大学栄養サポートステーション(NSS)を平成23年1月学内に設置した。栄養指導依頼患者は糖尿病5名、脂質異常症2名で述べ22回栄養指導を行った。全患者が骨格筋の減少を認めず体脂肪が減少した。患者満足度調査では全症例が満足と回答した。 NSSは、従来の栄養指導と異なる形式であり、患者の満足度も高い。高齢化が進むなかで増加し続ける慢性疾患に拍車をかけ、地域医療に貢献できるものであり、医療人の育成にも有効である。
41. PEG施行患者の術前血清アルブミン値と術後トラブルの関係	共	2012年02月23日	第27回日本静脈経腸栄養学会	藤村真理子、内海繁敏、和田哲成、里中和廣、森垣知美、武内海歌、福尾恵介、鞍田三貴 PEG依頼があった175例の栄養状態を把握し、術後トラブル発生との関連について検討した。 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行理由は嚥下困難

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>2. 学会発表</b>				
42. ワークショップ アウトカム予測因子としての栄養アセスメント 初回治療結核患者の排菌陰転化遅延に關与する入院時栄養因子	共	2012年02月	第27回日本静脈経腸栄養学会	が最も多く、術前の年齢や体格、疾患および術式とトラブル発生に關連は認めず、栄養指標が低値を示す症例はトラブル発生が高率であることが明らかとなり、施行前のNST關与の重要性が示唆された。
43. 初回治療結核患者の入院時栄養状態	共	2012年01月15日	第15回日本病態栄養学会	武内海歌、鞍田三貴、中野可奈子、中山環、大石幸男、和田和由、林清二 結核菌培養検査陽性であった初回治療結核患者554名（男性385名、女性169名、年齢中央値63歳、レンジ81歳）を対象に陰転化遅延に關与する栄養因子を検討し、log-rank testにより陰転化遅延に關与する栄養因子を求めた。
44. PEG施行患者の術前血清アルブミン値と術後トラブルの關係	共	2012年01月15日	第15回日本病態栄養学会	陰転化遅延に關与する栄養指標は入院時BMI、Alb、PNI、CRPであり、50歳以上では性別も影響していた。 森垣知美、武内海歌、藤村真理子、内海繁敏、和田哲成、里中和廣、福尾惠介、鞍田三貴 PEG依頼があった175例の栄養状態を把握し、術後トラブル発生との關連について検討した。 神経筋疾患専門病院におけるPEG施行理由は嚥下困難が最も多く、術前の年齢や体格、疾患および術式とトラブル発生に關連は認めず、栄養指標が低値を示す症例はトラブル発生が高率であることが明らかとなり、施行前のNST關与の重要性が示唆された。
<b>3. 総説</b>				
1. 私の栄養管理術～実践編～	単	2016年6月1日	New Diet Therapy	不安定狭心症、慢性腎不全の透析患者を提示し栄養管理の實際を紹介
2. 在宅医療～とりあえず一歩踏み出してみました～	単	2015年	New Diet Therapy 31(3)105-110	地域の糖尿病患者は高齢者が多い。施設に留まっている栄養食事指導をとりあえず一歩在宅指導へと足を向けてみると、管理栄養士でなければできない支援が見えてきた。地域での在宅医療、介護連携推進体制の構築に管理栄養士は貢献できる。
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
1. 将来に向けて、食・栄養をどう捉え、日本臨床栄養協会はどうか【新春座談会】		2014年1月	New Diet Therapy 日本臨床栄養協会30(1):pp3-14 (2014)	橘詰直孝 小沼富男 多田紀夫 鞍田三貴 日本臨床栄養協会の将来像に繋げるための新春座談会
<b>6. 研究費の取得状況</b>				
<b>学会及び社会における活動等</b>				
年月日	事項			
1. 2001年～現在、2005年～編集委員、2011年～2016年評議員 2016`代議員	日本静脈経腸栄養学会			
2. 2001年～現在、2003年～評議員	日本病態栄養学会			
3. 1998年～現在	日本栄養改善学会			
4. 1993年4月～現在	日本糖尿病学会			
5. 1991年～現在、2000年～評議員	日本臨床栄養協会			
6. 1991年～現在	日本動脈硬化学会			
7. 1991年～現在、1999年～評議員	日本臨床栄養学会			
8. 1983年4月～現在	日本肥満学会			